

高校生の自撮り写真における ソーシャルメディア投稿と承認欲求の関係について

朱文昌¹, 稲垣俊介², 辰己丈夫³

¹東京都立世田谷総合高等学校

²東京都立神代高等学校

²放送大学教養学部

1. 研究の経緯と目的①

教科や学級担任として、情報モラル(規範・善悪)や情報リテラシー(判断・行動)の指導で、世の中のトラブル事例を取り上げている。

生徒はトラブルになること、悪いことは分かっているが、自分事として捉えて気を付けない(られない)ことも多い。

| | |
|----------|------------|
| 2007年11月 | テラ牛丼事件 |
| 2013年 7月 | アイスクース事件 |
| 2023年 1月 | 回転寿司ペロペロ事件 |

限度を超えてしまい、生徒指導案件につながる。

体調悪いのに遊びに・・・
バイク登校の様子が・・・ など

効果的に指導する方法・気づかせる方法はないものか？

高校生の自撮り写真におけるSNS投稿と承認欲求の関係を明らかにする



投稿写真の内容、時間、頻度などの特徴をつかめる (仮説)



特徴を踏まえたメディアリテラシー教育 (規範・行動・発信) の実践

1. 研究の経緯と目的②

研究仮説

高校生が自撮り写真をソーシャルメディアに投稿するとき承認欲求の質や強弱によって頻度や内容が変化する。

具体的には

賞賛獲得傾向な写真投稿、拒否回避傾向の写真投稿
投稿回数、投稿時間、投稿内容などに特徴が見られる

↓
特徴を踏まえたメディアリテラシー教育の実践

何か特徴があるのでは？

表1. 相関からみられる感情

| 自分の自撮りについて | 賞賛獲得欲求 | 拒否回避欲求 |
|------------|--------|--------|
| 否定的反応 | ??? | ??? |
| 肯定的反応 | ??? | ??? |

2. 今回の調査で分かったこと

指導の要素

1. 一番使われているSNSはInstagram

→ 本研究のポイントである「自撮り」が多く投稿されている

写真メディアの特性

2. SNS依存者(承認欲求が強い群)は15%ぐらい

→ 承認欲求に起因したSNS依存や不適切使用の可能性

欲求との付き合い方

3. SNSの因子分析より

Twitter → 時間をコントロールできないほど使用

Instagram → 他人が気になる(人間関係の悪化、誤魔化し

TikTok → 他人が気になる(落ち着かない、満足できない

SNSの特徴を掴んだ指導

4. 一番多い自撮りは「自分と他人」であり、一番投稿されている

身内感覚のリスク大

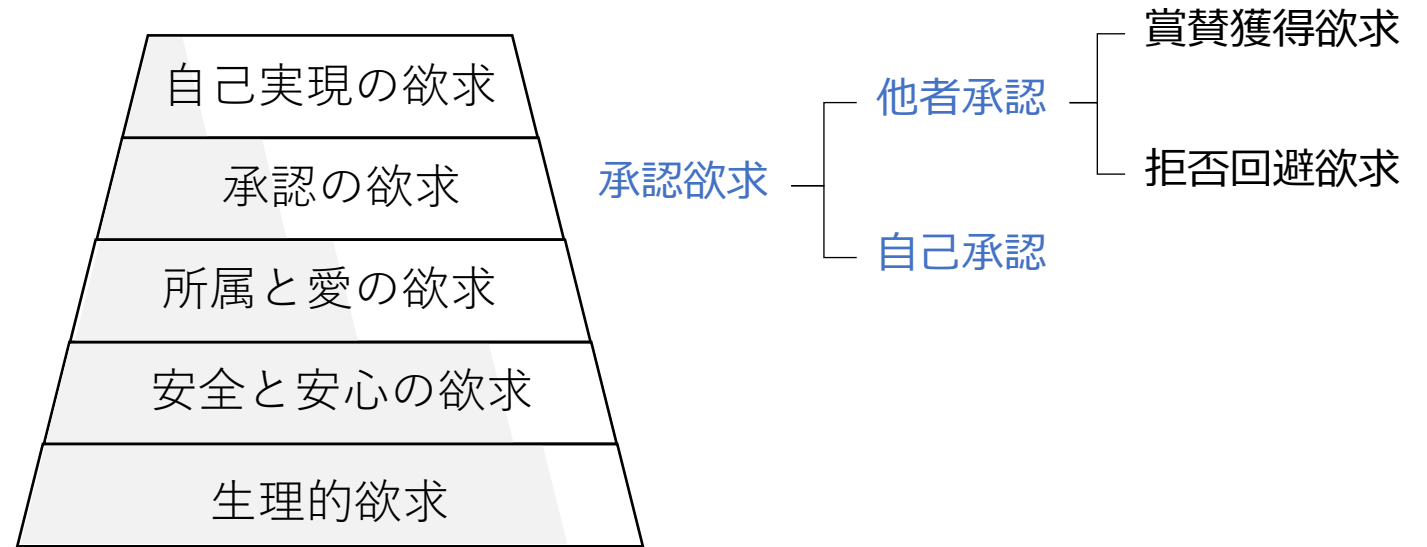
5. 承認欲求が強い群は、肯定場面でも否定場面でも拒否回避欲求が作用

→ 嫌われたくない・疎外されないためのSNS使用

適切な距離感

3. 先行研究 SNS依存と承認欲求①

正木らの研究(2020年)



SNS依存のプロセス

図1.マズローの基本的欲求の階層図(廣瀬ら作図)

実生活で人気者になることは難しく、他者からの承認を実感することも難しい

↓

SNSは他人から否定されることを避けつつ、承認を可視化して無限に得られる特異なツール

↓

承認欲求を満たすためにSNS依存

4. 先行研究 SNS依存と承認欲求②

橋元らの研究(2018年)

Youngの診断アンケート(8項目)に準じた依存調査 (大手SNS会社の協力)

↓

- ・ 10代の学生にSNS依存者が多い (有効回答56,272人のうち11.0%が依存者)
- ・ SNSの利用時間が長いほど、依存傾向が強い

SNSの利用について、負担に思うことを調査

↓

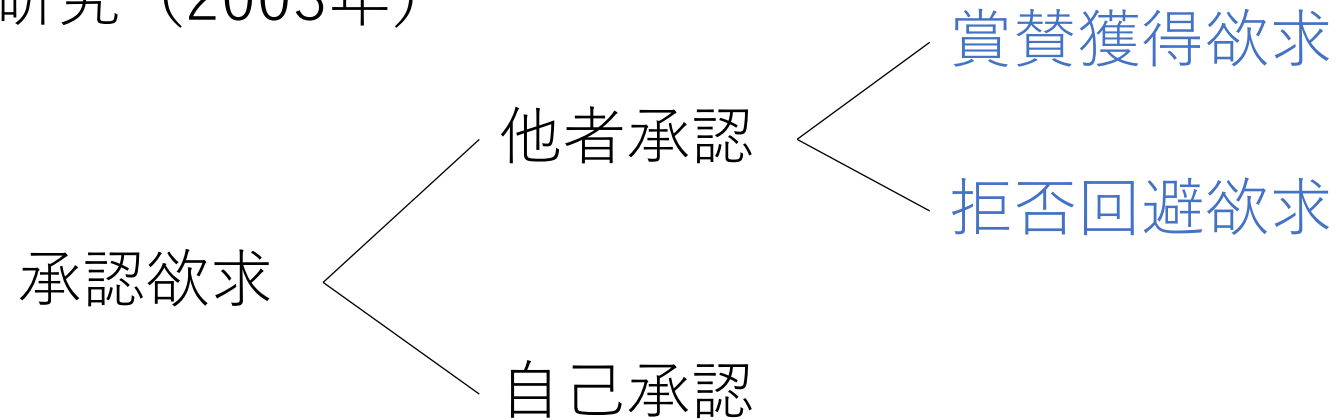
SNS上の人間関係 (実生活と同じだった)

SNS依存のプロセス

SNSを使う → 孤独からの癒し、承認欲求の充足 → 使う
SNSを使わない → 中傷、仲間外れ、孤独を感じる → 使う

4. 先行研究 賞賛獲得欲求と拒否回避欲求

小島らの研究（2003年）



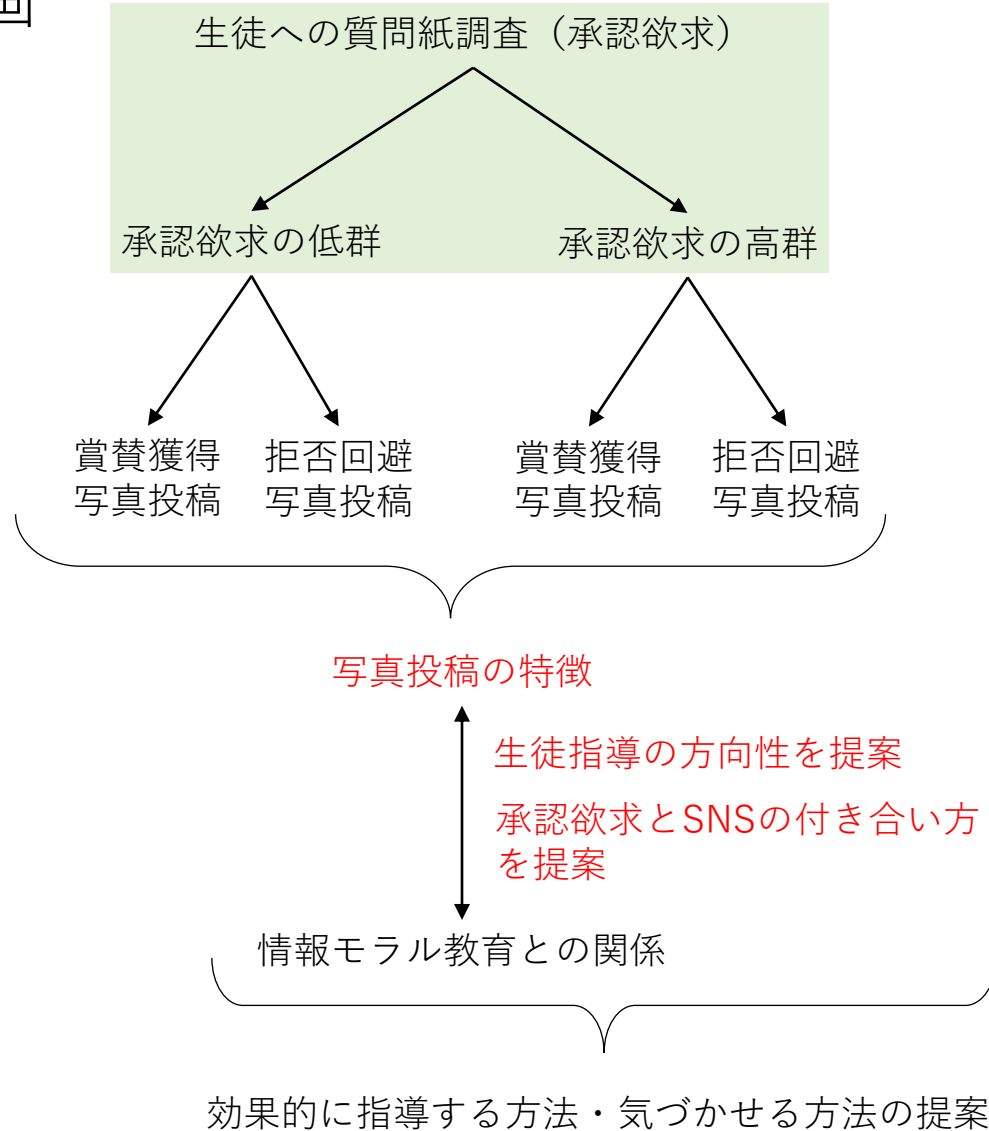
- ・ 賞賛獲得欲求と拒否回避欲求の尺度を作成
- ・ 構成概念妥当性の検証

表1. 相関からみられた感情

| 自分の発言について | 賞賛獲得欲求 | 拒否回避欲求 |
|-----------|--------|--------|
| 否定的反応 | 怒り | 恥じ |
| 肯定的反応 | 満足 | 照れ |

5. 予備調査の設計①

研究計画



背景

依存症テスト(定量：強弱)

承認欲求を直接測る尺度がないため、SNS依存と承認欲求の関係に着目

SNS X 依存症テストを利用

賞賛獲得・拒否回避尺度の
写真版の作成(定量：質)

自撮り投稿の調査

自撮り(人・モノ・風景)

時間 (朝・昼・夜)

頻度 (1日?回)

感情 (満足・怒り…)

5. 予備調査の設計②

YoungのDQを参考に河井らが作成したSNS X依存度尺度

表2.SNS X依存尺度の項目

| 番号 | 設問 |
|----|--|
| 1 | もともと想定していたより長時間SNS Xを利用してしまふ |
| 2 | SNS Xを利用していない時も、SNS Xについて考えてしまふ |
| 3 | SNS Xの利用時間を減らそうとしても、落ち着かなかくなったり、憂うつになったり、落ち込んだり、いらいらいしたりする |
| 4 | SNS Xに利用時間を減らそうとしても、失敗してしまふ |
| 5 | ますます長時間SNS Xを利用していないと満足できなくなっている |
| 6 | 落ち込んだり不安やストレスを感じたとき、逃避や気晴らしにSNS Xを利用している |
| 7 | SNS Xの利用が原因で家族や友人との関係が悪化している |
| 8 | SNS Xを利用している時間や熱中している度合いについて、ごまかしたりウソをついたことがある |

8項目中5項目が当てはまる場合を**依存者**とする

全くない=1点、まれにある=2点、ときどきある=3点、よくある=4点、いつもある=5点の5段階評価で得られた合計点によって**依存度**を判定する

5. 予備調査の設計③

文字よりも多くの情報が記載・表現できる写真

特に自分および自分たちを主役にした「自撮り」に着目

写真や動画を扱えるSNSとしてTwitter, Instagram, TikTokを調査対象とする

SNSの特徴

Twitter：文字が主体、リツイート機能による拡散性

Instagram：写真が主体、ハッシュタグによる検索性

TikTok：動画が主体、AIを活用した拡散性

6. 予備調査の実施

調査対象：東京都内の公立高校1～3年次男女

調査期間：2022年7月12～19日

調査方法：オンラインアンケートフォームに各自の端末から回答

6. 予備調査の実施

パート 1
使用SNSを調査

パート 2
使用SNSを想定し、
SNS X尺度に回答

【まだ受付中】SNSの依存チェック

7/14に行われるSNS活用講習会で、使用する調査フォームです。
下記の2つの質問について、回答をお願いします。

1. あなたの最もよく使っているSNSを選択してください。*

- Twitter
- Instagram
- TikTok
- SNSを使っていない

2. SNS Xの部分を質問1で、「あなたが最もよく使っているSNS」におきかえて、下記の質問に答えてください。*

全くない 1点 まれにある 2点 ときどきある 3点 よくある 4点 いつもある 5点

もともと予定していたより長時間SNS Xを利用してしまっ

図 2.オンラインアンケートフォーム

7. 予備調査の結果 使用SNS

表3.使用SNSの内訳(n=293)

| SNS | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 合計 | (%) |
|-----------|-----|-----|-----|-----|-------|
| Twitter | 39 | 22 | 26 | 87 | 29.7 |
| Instagram | 88 | 45 | 35 | 168 | 57.3 |
| TikTok | 22 | 9 | 7 | 38 | 13.0 |
| 合計 | 149 | 76 | 68 | 293 | 100.0 |

7. 予備調査の結果 依存者・依存度

表4.SNS依存者の内訳(n=293)

| 年次 | 回答数 | 依存者 | (%) |
|-----|-----|-----|------|
| 1年次 | 149 | 68 | 45.6 |
| 2年次 | 76 | 21 | 27.6 |
| 3年次 | 68 | 25 | 36.8 |
| 合計 | 293 | 114 | 38.9 |

8項目中5項目に該当

表5.SNS依存度の内訳(n=293)

| 依存度 | 回答数 | (%) |
|---------|-----|-------|
| 平均的なユーザ | 180 | 61.4 |
| 中リスクユーザ | 100 | 34.1 |
| 高リスクユーザ | 13 | 4.4 |
| 合計 | 292 | 100.0 |

5段階評価の合計得点が
平均的 (~15点以下)
中リスク (~27点以下)
高リスク (28点以上)

8. 調査結果の分析 SNS依存

表6.SNS依存の因子分析結果(バリマックス回転)

| 番号 | 質問 | 因子1 | 因子2 |
|----|--|-------|-------|
| q1 | もともと予定していたより長時間SNS X を利用してしまう | 0.834 | 0.160 |
| q2 | SNS X を利用していない時も、SNS X のことを考えてしまう | 0.569 | 0.469 |
| q3 | SNS X を利用していないと、落ち着かなくなったり、 憂うつになったり、落ち込んだり、いらいらしたりする | 0.266 | 0.753 |
| q4 | SNS X の利用時間を減らそうとしても、失敗してしまう | 0.605 | 0.335 |
| q5 | ますます長時間SNS X を利用しないと満足できなくなってなっている | 0.535 | 0.586 |
| q6 | 落ち込んだり不安やストレスを感じたとき、 逃避や気晴らしにSNS X を利用している | 0.406 | 0.286 |
| q7 | SNS X の利用が原因で家族や友人との関係が悪化している | 0.186 | 0.521 |
| q8 | SNS X を利用している時間や熱中している度合いについて、 ごまかしたりウソをついたことがある | 0.194 | 0.446 |

8. 調査結果の分析 SNS依存

表7.SNS Xごとの因子分析結果(バリマックス回転)

| 番号 | 質問 | X | Twitter | | Instagram | | TikTok | |
|----|--|---|---------|-------|-----------|-------|--------|--------|
| | | | 因子1 | 因子2 | 因子1 | 因子2 | 因子1 | 因子2 |
| q1 | もともと予定していたより長時間SNS X を利用してしまう | | 0.320 | 0.951 | 0.742 | 0.243 | 0.804 | -0.201 |
| q2 | SNS X を利用していない時も、SNS X のことを考えてしまう | | 0.577 | 0.401 | 0.605 | 0.454 | 0.516 | 0.687 |
| q3 | SNS X を利用していないと、落ち着かなくなったり、憂うつになったり、落ち込んだり、いらいらしたりする | | 0.618 | 0.118 | 0.420 | 0.696 | -0.147 | 0.650 |
| q4 | SNS X の利用時間を減らそうとしても、失敗してしまう | | 0.237 | 0.503 | 0.684 | 0.329 | 0.692 | 0.349 |
| q5 | ますます長時間SNS X を利用しないと満足できなくなっている | | 0.702 | 0.306 | 0.618 | 0.556 | 0.347 | 0.684 |
| q6 | 落ち込んだり不安やストレスを感じたとき、逃避や気晴らしにSNS X を利用している | | 0.504 | 0.272 | 0.440 | 0.306 | 0.395 | 0.115 |
| q7 | SNS X の利用が原因で家族や友人との関係が悪化している | | 0.051 | 0.136 | 0.234 | 0.580 | 0.143 | 0.299 |
| q8 | SNS X を利用している時間や熱中している度合いについて、ごまかしたりウソをついたことがある | | 0.280 | 0.135 | 0.239 | 0.514 | 0.006 | 0.142 |

8. 調査結果の分析 因子(SNS全体)

表8.SNS依存(全体)の因子ごとの設問番号と設問数

| | 因子1 | 因子2 |
|------|-----------|---------|
| 設問番号 | 1,2,4,5,6 | 3,5,7,8 |
| 設問数 | 5 | 4 |

因子1：利用願望

因子2：欲求不満

表9.SNS別の因子ごとの設問番号と設問数

| | Twitter | | Instagram | | TikTok | |
|------|---------|-----|-----------|---------|--------|-------|
| | 因子1 | 因子2 | 因子1 | 因子2 | 因子1 | 因子2 |
| 設問番号 | 2,3,5 | 1,4 | 1,2,4,5 | 3,5,7,8 | 1,2,4 | 2,3,5 |
| 設問数 | 3 | 2 | 4 | 4 | 3 | 3 |

因子1：コントロール不能

因子2：時間超過

利用願望

拒否回避

利用願望

賞賛獲得

9. 予備調査の反省と改善

1.SNS X尺度は依存者を調査するには良いが、依存度を調査するには質問項目が少なすぎた

質問項目を増やす必要がある

2.SNS別の因子分析でツールごとに異なる特徴があった

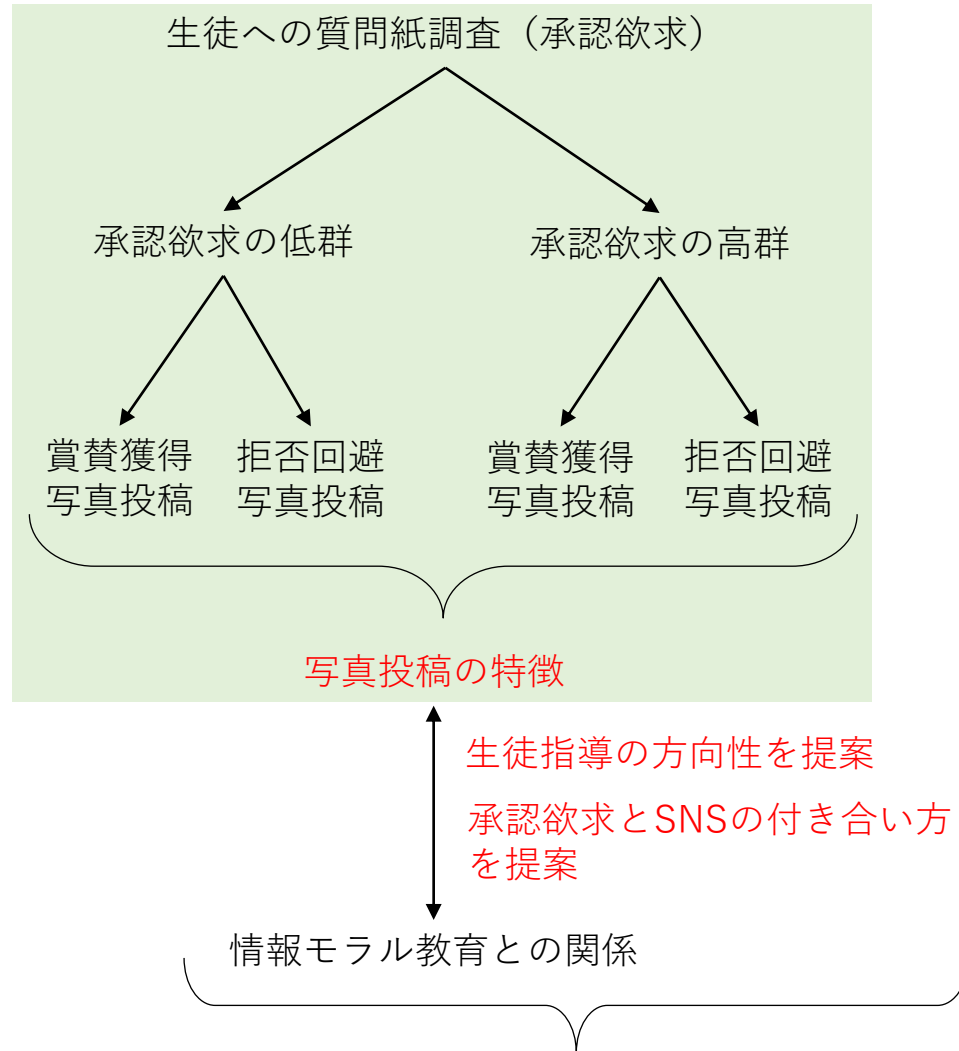
同じサービスで複数アカウント、複数サービスでそれぞれアカウントがある場合を想定して調査する必要がある

3.自撮りやSNSの使い方について調査はしていない

自撮りの種類、自撮りの投稿先、SNSの用途について調査する必要がある

10. 本調査の設計①

研究計画



背景

依存症テスト(定量：強弱)
承認欲求を直接測る尺度がないため、SNS依存と承認欲求の関係に着目

SNS X 依存症テストを利用

賞賛獲得・拒否回避尺度の
写真版の作成(定量：質)

SNSの使い方調査を追加

自撮り投稿の調査
自撮り(人・モノ・風景)
時間 (朝・昼・夜)
頻度 (1日?回)

感情 (満足・怒り...)
↓
エクマンの基本感情

実施アンケートの
該当パート

パート1

パート5

パート2

パート3

パート4-1

パート4-2

10. 本調査の設計①

本調査のお話はまた別の機会に

10. 今回の調査で分かったこと

指導の要素

1. 一番使われているSNSはInstagram

→ 本研究のポイントである「自撮り」が多く投稿されている

写真メディアの特性

2. SNS依存者(承認欲求が強い群)は15%ぐらい

→ 承認欲求に起因したSNS依存や不適切使用の可能性

欲求との付き合い方

3. SNSの因子分析より

Twitter → 時間をコントロールできないほど使用

Instagram → 他人が気になる(人間関係の悪化、誤魔化し

TikTok → 他人が気になる(落ち着かない、満足できない

SNSの特徴を掴んだ指導

4. 一番多い自撮りは「自分と他人」であり、一番投稿されている

身内感覚のリスク大

5. 承認欲求が強い群は、肯定場面でも否定場面でも拒否回避欲求が作用

→ 嫌われたくない・疎外されないためのSNS使用

適切な距離感

参考文献

- 1986 菅原 健介 賞賛されたい欲求・否定されたくない欲求
- 2003 小島 太田 菅原 賞賛獲得欲求と拒否回避欲求尺度制作の試み
- 2009 廣瀬 菱沼 印東 マズローの基本欲求の階層図へ原点からの新解釈
- 2010 坂本 季実子 インターネット上における大学生の自己開示に関連する要因
- 2012 斎藤 富由起 青年期における見捨てられ不安尺度開発の試み その1
- 2017 河井大介 SNS依存とSNS利用実態とその影響
- 2017 上岡拓海 Instagram投稿者の自己愛と自尊感情からみる投稿頻度と満足度の関連
- 2018 橋元良明 ネット依存の現状と課題 SNS依存を中心として
- 2019 加納寛子 承認欲求とソーシャルメディア使用傾向の関連性
- 2019 黒川 本庄 三島 高校生・高専生用スマートフォン利用によるインターネット依存傾向尺度の作成
- 2020 四海飛鳥 高等学校の生徒指導におけるSNS 対応の課題
- 2018 正木大貴 承認欲求についての心理学的考察
- 2020 正木大貴 なぜわれわれはSNSに依存するのか
- 2020 吉澤英里 承認欲求と評価への恐れが社会不安に及ぼす影響
- 2020 文部科学省 高等学校学習指導要領（平成30年告示）総則編
- 2020 文部科学省 高等学校学習指導要領（平成30年告示）情報編

10. 今回の調査で分かったこと

指導の要素

1. 一番使われているSNSはInstagram

→ 本研究のポイントである「自撮り」が多く投稿されている

写真メディアの特性

2. SNS依存者(承認欲求が強い群)は15%ぐらい

→ 承認欲求に起因したSNS依存や不適切使用の可能性

欲求との付き合い方

3. SNSの因子分析より

Twitter → 時間をコントロールできないほど使用

Instagram → 他人が気になる(人間関係の悪化、誤魔化し)

TikTok → 他人が気になる(落ち着かない、満足できない)

SNSの特徴を掴んだ指導

4. 一番多い自撮りは「自分と他人」であり、一番投稿されている

身内感覚のリスク大

5. 承認欲求が強い群は、肯定場面でも否定場面でも拒否回避欲求が作用

→ 嫌われたくない・疎外されないためのSNS使用

適切な距離感